

令和3年度 第3回 学校運営協議会 議事録

校名	大阪府立とりかい高等支援学校
校長名	松村 高志

開催日時	令和4年3月11日(金)
開催場所	府立とりかい高等支援学校
出席者(委員)	A委員、B委員、C委員、D委員、E委員
出席者(学校)	校長、教頭、事務長、首席、部主事、進路指導主事 教務主任、保健主事、生徒指導主事、地域支援部長
傍聴者	0名
協議資料	<ol style="list-style-type: none"> ① 令和3年度 第3回学校運営協議会 次第 ② 学校運営協議会 実施要項 ③ 学校運営協議会 委員名簿 ④ 学校運営協議会 事務局名簿 ⑤ 令和3年度「学校経営計画及び学校評価」※学校教育自己診断の結果と分析 ⑥ 学校教育自己診断：【生徒】【保護者】【教員】別 上位と下位 ⑦ 令和4年度「学校経営計画」 ⑧ 全国健康づくり推進学校「最優秀校」選出に際して 「就労後の自立を目標とし、人生100年時代を生きていく力の育成」 ⑨ 令和3年度7期生(3年生)進路先一覧
備考	事務室前の投書箱には意見書の提出はない

議題等(次第順)

- ・令和3年度「学校経営計画及び学校評価」※学校教育自己診断の結果と分析 について
- ・令和4年度「学校経営計画」について
- ・新型コロナウイルス感染症の影響について
- ・全国健康づくり推進学校「最優秀校」選出について ※動画視聴
- ・令和3年度7期生(3年生)進路状況について
- ・その他、質疑応答

・令和3年度 学校経営計画及び学校評価 ※学校教育自己診断の結果と分析 について 資料⑤・⑥

【校長】

新型コロナウイルス感染症の影響で、できなかった部分もあった。そのような中でも生徒の成長につながる活動ができたと思う。学校教育自己診断の上位と下位の項目も参照してご意見を伺いたい。

【D委員】

おおむね ○ がついていて頼もしい。p5(3)イ「教職員は学校の運営や改善に役立つよう積極的に意見や考えを発信している」が目標は80%以上、前年度は71%、今年度は68.3%と下がっている。学校はどう分析しているか。

【校長】

やはりコロナの影響で、教職員がみんなで集まって作業等をする機会が少なかった。離れて実施することでコミュニケーションが下がったと思われる。

【E委員】

p2「性に関する指導」は3年間で、保護者、教員の数値が下がっている。女性が若年で出産するなど、適切でない異性とのつきあいの結果、小さな子を抱えて就職活動することになり、就労が決まりづらい現実がある。「性の乱れ」が日常になっていることもある。学校の取り組みはどのようなものか。

【校長】

外部講師を招いて説明をしてもらっている。保護者、教員の「もっと踏み込んで指導することも必要か」という部分が数値の低さに表れていると思われる。また、保護者に対して、学校からの情報発信が少ないこともあるのではないかと。保護者は「性教育は学校で指導を」、一方で教員は「性教育は家庭で指導を」と考えることもある。教員としても、踏み込んで教えることは難しい面がある。

【生徒指導主事】

先日は座学で「性感染症」について指導した。以前は男女別に踏み込んだ内容を扱ったこともあった。本校は若い教員が多いが、いろいろな指導法を実践していきたい。やむを得ず学校に登校できない生徒については、オンラインによる指導も行った。

【A委員】

「支援の性教育」や「今求められているもの」など多岐にわたり、性の実態に合わせて伝えていくことが難しい。「女性の生理」についても、男性による発言は、かつてはタブー視されていたが、今では男女ともにお互いの体の仕組みについてよりよく知ることが大切である。「性同一性障がい」などについても学校で教わる機会が多いと思うが、教員が教えることを文部科学省がまとめてくれたら、教員の負担は減るかもしれない。ただ、やはり個別に合わせた指導も必要である。評価の数値は100%がいいのかということ、そうでもないかもしれない。家庭の視点、学校の視点が異なる部分があるだろう。3年生は高等支援学校としての仕上げであるが、性的課題に取り組む時間は短

いだろう。保護者が学校にここまでやってほしいという考え、学校としての考えがあるため、やはり性教育は難しい。そのような中で、学校は真摯に取り組んでいるといえる。全体的に、△の部分は、目標数値が高かったのかもしれない。

・令和4年度「学校経営計画」について 資料⑦

【A委員】

令和4年度の計画はどのようなものか。

【校長】

中期的目標は令和3年度と大きく変えていない。

- 1 タブレット端末1人1台は、すでに令和3年度内に体制が整っている。
- 2 教員の資質向上として、(2)「担任の先生に困っていることや悩みを話せる」を80%超えたい。(3)「経験年数の少ない教職員を学校全治で育成する体制が取れている」を2年間かけて、令和5年度評価で70%までもっていききたい。
- 3 地域との交流について、これまではコロナの影響で少なくなっているが、地域行事への参加を復活させていきたい。
- 4 ワークライフバランスについて、残業が多いので意識改革が必要である。

具体的な取り組みとして、

- 1 (2)ウ 昼休みの相談窓口 生徒が気楽に相談に行ける体制づくりをして、肯定率80%以上をめざしたい。
 - (2)エ コロナ対応の継続 生徒保健委員会を活用し、衛生対策の定着を徹底したい。
 - (2)オ 規則正しい生活 登校指導等の徹底により、遅刻数を200以下にしたい。
 - (3)ア 職場開拓 全教員が一人1回以上の開拓をする。
 - (3)イ 企業向け広報 企業が学校に来ていただく件数20件以上をめざし、生徒の取り組みを見ていただき、就労につなげたい。
 - (3)エ 進路学習 2年生のうちに4社の実習に行く生徒の割合を4割に増やしたい。進路に関する教員研修も年3回行いたい。
 - (4)イ 電子黒板の活用 1人1台端末を活用した授業を全教員が年10回実施する。
 - (5)ア 大会等への参加 部活への加入率を80%以上にしたい。
- 2 (1)ウ 高等支援のミッション 高等支援が何をやる学校であるかについて研修をし、オープンスクールや学校見学会で新転任の教員が説明する。
 - (3)イ 人材育成 職員会議後の時間を活用して、伝達講習ができるようにしたい。
- 3 (1)ウ 共生推進教室設置校との連携 本校での授業内の交流を年2回以上にする。
 - (2)イ 本校のホームページの活用 教員が年に一人2回以上ブログ発信する。
 - (2)エ 中学校等の体験授業を夏季休業中に実施したい。
 - (4)あ 国際理解教育の推進 継続して行っていく。台湾への研修旅行はコロナの影響により国内に変更になる可能性が高い。令和5年度の実施に向けて検討を続けていく。
- 4 (1)ウ 「教員がどんなことでも気軽に話し合えるような職場の人間関係ができている」の肯定率を70%以上にしたい。

【A委員】

コロナで生徒が登校できない場合の対策はどのようなものか。ICT を活用する等の工夫はあるか。

【校長】

令和3年度末に一部実施した。iPad を持ち帰り、Google Classroom により授業者や担任とつながるようにした。導入日の時点でインターネットにつながる体制の整っていない家庭は3件あり、大阪府のWi-Fi ルーターを貸与して環境を整えた。

【A委員】

GIGA スクール構想は今始まったばかり。これから好事例を取り入れ、授業の管理を進めていくとよいだろう。卒業生のものを回収し、新1年生用にするためには、中身の消去などが必要で、機器の管理は大変になるだろう。管理はどの部署が担当するのか。

【校長】

教務部の情報係が担当する。また、業者の派遣によりサポート体制を構築する。

【A委員】

プログラミングアプリの活用や外部人材についてご検討されたい。

【B委員】

令和3年度のスクールカウンセラーの活用は十分か。

【校長】

十分ではないと感じている。予算の関係上、来校日数は限られている。スクールソーシャルワーカーの予算とは別建てであり、来校回数が多いスクールソーシャルワーカーの活用を進めていきたい。教員によるランチタイム相談が生徒にとって、もっと手の届くような状況にしていきたい。

【E委員】

超過勤務の教員の80時間超えはどのような状況か。週に20時間以上、一日当たり4時間以上ということか。このような残業の多さは、民間企業ではあり得ない。公務員、教員の世界の構造の問題もあるのではないかと。改善が求められる。

【校長】

令和3年度の月に80時間を超える教員は3名いた。当事者は産業医の面談を受けることになっている。教頭や1学年主任などの一部の教員に負担が偏っている、選抜試験のマニュアル作りなどを休日に行っていることもある。仕事を適切に振り分け、このような状況を校長として改善していきたい。

【D委員】

民法の成人年齢18歳引き下げについての取り組みはどのように考えているか。

【校長】

すでに2年生の「ライフデザイン」の授業で取り扱っており、生徒の意識向上につなげている。

【A委員】

消費者教育として、被害者にならないように指導する必要がある。これまでは先生方の注意喚起が主だったことが、社会全体の課題になってくるだろう。契約や責任について、大事なことを決めるためにはどうしたらよいかを学校経営計画に入れてもよいかもしいない。

・新型コロナウイルス感染症の影響について

【教頭】

デルタ株の時には陽性症者はいなかったが、オミクロン株になると1月下旬に初めて陽性者が判明した。一日臨時休校としたが、再開した翌日に別の陽性者が判明したため、再度臨時休校となった。濃厚接触者の定義が変わってからは3日間程度の臨時休校の必要がなくなり、判明日のみの休校とすることで翌日からの登校が可能になった。保健所等のアドバイスを受け、休校を避けつつ、学校での行動履歴を把握して、対応を学校が判断するようになった。

・全国健康づくり推進学校「最優秀校」選出について ※動画視聴 資料⑧および冊子

【保健主事】

全国健康づくり推進学校「最優秀校」の選出について、これは各都道府県の推薦を受けた学校が表彰されたもので、その様子を掲載した冊子が全国の小、中、高等学校、特別支援学校4万校に配付されている。賞状と20万円をいただき、生徒に還元できるものの購入を検討したい。本来なら2月に東京で表彰式がある予定だったが、コロナの影響でインターネットでの動画配信となった。本校の活動紹介動画を作成したので委員の皆様にもご覧いただきたい。動画は学校保健会のホームページで8月まで視聴できる。 ※約10分の動画視聴

【C委員】

生徒が主体的に頑張っている様子を見られてよかった。

【A委員】

生徒保健委員会の7年間の積み重ねによるところであり、素晴らしい。

・令和3年度7期生(3年生)進路状況について 資料⑨

【進路指導主事】

資料⑨は7期生(3年生)にお進路状況の最終版であり、ほとんどの生徒の進路先が決定し、就労率は8割を超えた。7期生はコロナの影響を大きく受けて、2年、3年とも実習に行く機会が例年に比べ大幅に減った学年であった。今後は就職先と連携して定着支援をめざしていく。1名の生徒は長期欠席が続いたが、入学時は就職に意欲的であり、これまで担任が家庭訪問を繰り返してきた。卒業式では、本人は「これからゆっくり決めていきたい」と発言しており、在学中から地域の支援機関につなげるようにしていたため、本人ががんばろうと思うタイミングで活用できる環境を整え

ることができたといえるのではないだろうか。今後の変化も見守りたい。

1年生は、年度末までに13件の実習に行くことができた。令和2年度は6件であった。学年の職場体験実習の日程を早めたことにより回数が多くなった。

2年生は、年度末までに121件の実習に行きことができた。例年は90件程度である。ただし、コロナの影響か、実習のみの受け入れて、就労につながらない実習先も多いのも事実である。令和3年度の新規開拓企業は20件であり、そのうち就労につながったのは8社であった。

【E委員】

先日、卒業生2名が当センターに来所しアセスメントをした。本日も3名の来所があった。学校との連携がきちりできていると感じている。7期生は2年間コロナ禍で気の毒であるが、何もなければ楽しい高校生活があったのだろう。未来に希望をもって進めてほしい。しっかりと支援したい。

【B委員】

就職率が高く、素晴らしい。先月、他の支援学校で講演をしたが、多くの経験の中で、自分にとって何が合っているのか、得意、不得意についてわかることが大事である。

【D委員】

弊社以外は名立たる有名企業であり、先生方の開拓の成果である。継続して就労していることが大切だが、直近の離職率はどのような状況か。

【進路指導主事】

令和2年度卒業の6期生は、現在2名が離職したため、90%の定着率である。

【D委員】

2017年の障がい者の就労継続率は68%であった。90%以上というのはとても素晴らしい。高い定着率を保てるよう、このまま取り組みを続けてほしい。

【A委員】

中学校を出てから3年間で仕事に就く。如何に大変なことか。学校での取り組みは高い成果を出しているといえる。

・その他、質疑応答

特になし

次回の会議日程

日時	令和4年度は3回の実施（第2回は授業参観を含む）
会場	本校図書室